

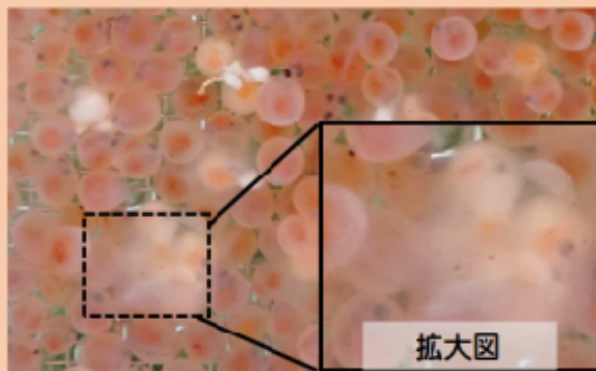
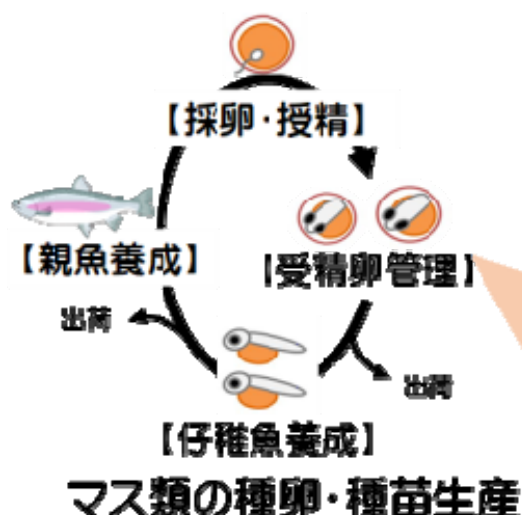
マス類種苗生産におけるミズカビ病防除の研究

(予算区分〔外部資金〕 研究期間 2025 年度)

担当：水産・海洋技術研究所 富士養鱒場 安藤大輝

【研究の背景とねらい】

- ・静岡県はニジマスの生産量が日本一であり、その根幹を担う種苗生産は非常に重要です。
- ・マス類の種苗生産では、卵を受精から孵化まで管理する過程でミズカビ病が発生し、大きな被害が出るため、防除策を講ずることが生産性の向上につながります。
- ・一方、ミズカビ病の原因病原体である卵菌類は淡水域に広く分布し、飼育環境からの排除は困難です。
- ・これまでは、ブロノポールを有効成分とする市販の水産用医薬品で薬浴することによりミズカビ病を防除していましたが、同医薬品の販売終了に伴い新たな水産用医薬品の開発が求められています。
- ・そこで本研究は、ミズカビ病を対象とした水産用医薬品の開発を目指し、新たな有効成分のミズカビ病防除効果に関する知見を集積することを目標とします。



ミズカビ病による被害

【期待される効果】

- ・新たな有効成分によるミズカビ病防除に関する知見の集積により、新たな水産用医薬品の開発が期待されます。
- ・ミズカビ病を防除することで種苗生産の生産性が向上し、県内養鱒業の経営安定化につながります。

【年次計画】

細目課題	2025 年度	研究内容
1) 薬浴条件の確立	○	異なる条件下で薬浴した場合のミズカビ病の発生状況や卵の状態を調査し、新たな有効成分を安全かつ効果的に使用するための条件を明らかにする。
2) 生産規模での効果実証	○	明らかにした薬浴条件に基づき、実際の生産規模でミズカビ病の防除が可能か検証する。

(作成 2025 年 4 月)